

えています。Aさんはサイコロを振るときには手を上手く使い、サイドテーブルから落ちないように力の加減をして振ります。職員と順番にサイコロを振り、旗を取っていくと、途中で「僕の方が多いかも」と自分の勝ちを期待しているような言葉が出ました。反対に×が出たり、サイコロの絵と同じ絵柄の旗がすでになくて取れなかったりすると「ああ」と頭を押さえ、残念がっていました。ゲームをやる中で、勝敗にドキドキする様子や勝ちたい気持ちがとてもよく伝わってきました。すべての旗を取り終えると、一緒に取った旗の本数を数えました。職員と一緒に「1本、2本…」と数えていくと、職員が取った残りの旗を気にして、勝敗にドキドキしているようでした。10対10の引き分けだったのですが、「同点だったね」と職員が言うと、間髪入れず、大きな声で「もう1回!」と言いました。職員が「今度は勝てるように頑張らなきゃ!」と自分に気合を入れると、Aさんも「僕が勝つかも」と負けたくないようでした。結局、2回戦目も同点でした。ゲームが終わると「2回とも同点だったね、また勝負しましょう」と、次の

対戦を期待していました。Aさんが利用者であることを忘れて私自身も負けたくない気持ちになっていました。いつもは見学者やショートステイの利用者がリビングに入ってくると、それまで職員と楽しそうに話をしていたのも、そちらに気持ちがふれるのですが、ゲームの最中は周りの様子を気にすることなく集中し、とても真剣です。Aさんにとってやりがいのある時間であったと思います。



**だいちの
日常活動紹介**
中田 亮

Aさん(横地分類A6)は
普段部屋で過ごしていること

が多く、カーペンターズなどゆつたりとしたリズムのCDを聞いて楽しそうに体を揺らす様子がみられます。絵本もゆつたりとした語りの方がよいと考え活動をすすめてきました。昨年は『ぐりとぐら』シリーズや『手ぶくろを買った』のように、やさしい雰囲気やの語りやゆつたりと流れるような語りの本を中心に提供しました。にこやかな表情になったり気持ちよさそうに身体を揺らして聞いていました。

活動の中で何冊か本を提供していくうちに、会話が楽しくなると、会話が続くような本では口元を緩めて楽しそうな表情で聞いている様子が見られ、しっとりとした語りの本では真剣な表情でじつと動きを止めて聞く様子が見られました。Aさんは言葉の理解はありませんが、本の物語の世界を感じているようでした。今年には物語に展開のある本をすすめています。『かもとりごんべい』を語りかけると、職員の方に顔を向けて、本と職員を交互に見ながら語りかけを聞いています。ごんべいがかもに引張られて飛んでいくところでは、「たすけてくれ!」の台詞や「バサバサッ」といった擬音語になると目を大きくしたり職員

の顔を見つめるようになり、

こっけいな状況を感じている様子が見られます。ごんべいが鳥になり空を飛んでいくところでは笑顔になって楽しそうに聞いている様子がありました。とりになったごんべいが人間の仕掛けたわなにかかって泣いてしまうところでは、眉間にしわを寄せて悲しい表情になっていました。職員の語りの口調や台詞の抑揚などから、物語の悲しいや楽しいなどの雰囲気を感じて楽しんでいきます。



Aさんは絵本の絵もよく見えています。『つみき』という絵本を開くとすぐに視線を向け、積み木が描かれているところをじつと見つめます。ページをめくると、積み木がだんだん増えていくと、Aさんの視線もだんだん上がっていきます。積み木が高く積

まれたページでは、上下に視線が何度も動き積み木が積み上がったところを見えています。積み上がった積み木が揺れたり崩れたりするページでは、目を大きくしたりにこやかなよい表情になったりすることがあり、それまでとは違った展開を感じている様子が見られます。積み木がだんだんと積み上がり揺れたり崩れたりする、という画面の変化のストーリーを感じて楽しんでいます。と考えられます。

新入職員の紹介

●すばる 藤井 裕実子
4月から1号館すばるへ配属になりました。学生時代に約半年間すばるでアルバイトさせていただいた経験を生かし、利用者一人ひとりにあった安心・安全な生活空間を確保できるように取り組んでいきたいと考えています。まだまだ未熟ではありますがよろしくお願いたします。

●うらら 高林 知世
4月より、2号館「うらら」に勤務しております。おおぞらでは、学生時代の4年間毎週アルバイトでお世話になっ